

コロナ後に向けての「良い社風」と「良い会社」づくり！！

「成長ドライバ理論」を学ぶ — 概要編

株式会社 山西 あすなろ会顧問
代表取締役社長 西垣 洋一

今、日本は、新型コロナウイルス デルタ株が蔓延、連日のように感染者数を更新、これまで経験のない感染拡大の“第5波”に直面しています。ワクチン接種が進んでいない50代以下の世代が感染の9割を占め、又症状の進行も早く若い世代でも重症者が急増、既に病床の逼迫が進み医療崩壊の危機が迫っています。一部では更に強い人流抑制策であるロックダウンを求める声さえ出始めています。本稿執筆時点で東海3県も緊急事態宣言の発令が避けられない模様です。とは言え、私たちができることは、自粛疲れに負けることなく、今まで以上に感染防止策の徹底を図る他ありません。

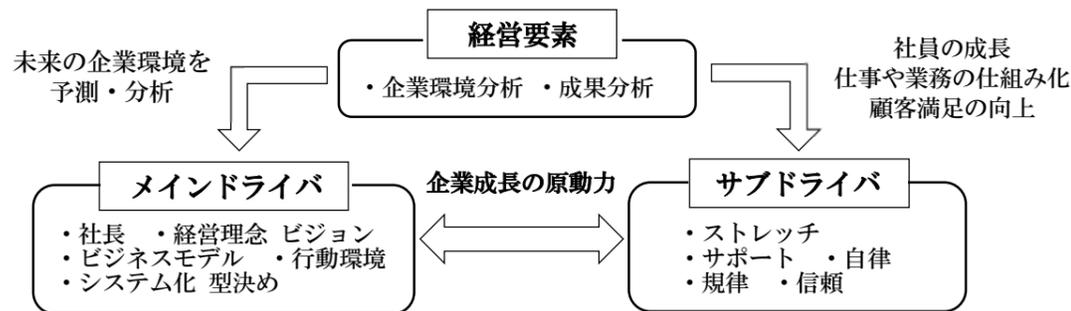
木材 住宅業界は、コロナ禍による経済活動の停滞が強まる中、直面するウッドショックによる資材動向は、今後もう一段の価格高騰と厳しい資材不足の局面を迎えます。9月以降に入荷する輸入木材は、高値での契約済のものとなり、更なる高騰が進み、国産材・針葉樹合板などの価格も追随します。

「成長ドライバ理論」とは！！ — コロナ後の世界を見据えて —

厳しい環境にある今は、目の前の問題に対処するとともに、企業の成長に向け、After コロナ、先を見据えた対応・準備をすることが肝要です。それは、自社の強みと弱みを把握し、強みをより強固に、弱みを克服することに他なりません。「良い社風」「良い会社」とは、財務上の業績が優れているだけでなく、そこで働く人たちが成長し、仕事のやりがいを実感できる会社のことです。その手法の1つに、松山大学の東淵則之教授が開発された「成長ドライバ理論」があります。

「成長ドライバ理論」とは、可視化・定量化が困難と言われる企業成長、特に「良い会社づくり」のための要素を抽出し、経営の全体像を1枚の図「成長ドライバ理論のフレームワーク」で理解できるようにしています。そして企業の円滑運営や成長を生み出す原動力を10のドライバとして捉え、フレームワークにすることで、経営者は思考に漏れがなくなり、「良い会社」づくりをバランスよく、深く検討できるようになります。又、経営の基本メカニズムを解明し、「良い会社」と言える条件をどの程度実現できているのか、ドライバ間の相対的な強み、弱みはどうか、その要因は何かなど全体的から細部に至る自己観照、自社観照が可能となります。各ドライバを動かすのは社員であり、「社員を大切にしたい」という思いや行為は、各ドライバが生き生きと動くためのエネルギー、潤滑油です。これによりフレームワークに血が通います。

① 10のメイン・サブドライバ（原動力）と2つの経営要素



② 「良い会社づくり」とは「人づくり」と「事業づくり」の構築

「人づくり」と「事業づくり」を相互に高め合うことで「良い会社づくり」が実現します。「成長ドライバ理論のフレームワーク」では、「人づくり」は、「社長」「経営理念・ビジョン」「行動環境」のドライバで右図①の楕円の縦軸の「人づくり軸」、「事業づくり」は、「ビジネスモデル」「システム化・型決め」のドライバで右図①の楕円の横軸の「事業づくり軸」になります。

今月は、「成長ドライバ理論を学ぶ— 概要編」について御紹介させていただきましたが、来月の本稿では、「成長ドライバ理論を学ぶ — 実践編」についてご紹介できればと思います。

